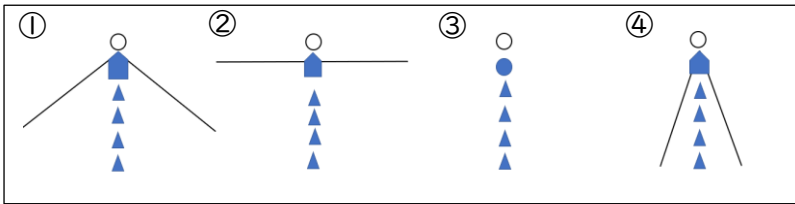


教科	体育科
2学年 単元名『ならんでベースボール』 授業実践・授業研修	
日時	令和7年 10月10日(金)
授業者	計田 太樹
本時のねらい	楽しくゲームができる場を、コートの広さから考えることを通して、自己に適した規則を選ぶ。
キーワード	攻撃の仕方や守備の仕方、規則の選択、協働的、体育と道徳
授業の実際 (本時の子供の姿)	コートにファールゾーン・フェアゾーンがない状況を意図的に仕組む。 まず、攻め方を考える際は単に打つだけの技能だけでなくどこに打てば効果的なのか考えさせた。 次に効果的な攻め方と守り方を考えた。どこに打たれると失点が多くなってしまうのかを想像して守備位置や誰がどこのポジションを守るのかを考えさせた。(はやく集まることのできるポジション) ここで、打てる範囲が広すぎると守る側が不利であることに気づかせ、コートの広さを考えたいという課題がもてるようにした。 (ラインの必要性を児童たちに気づかせておく。) 本時では、コートの広さについての考えたいという課題を児童から引き出し、4つの広さのコートで試しのゲームをし、楽しく公正公平にゲームをすることができるコートの広さを合意形成させた。  実際の児童の姿は、まず、一番狭い④では打つほうが楽しくないと、このコートを選んだ児童は少なかった。次に線のない③では最初楽しくできるという児童が多かったのだが、後ろに打たれると守るほうが楽しくないという理由で児童は選択しなかった。本時では残ったラインが90度の①と180度の②ではどちらでも楽しめるという児童の選択だった。後日安全面についての視点を入れて考えたところ、「180度の②だ

	とボールが校舎にあたってしまうこともあり危険、だから90度の①のほうが安全で楽しくできる。」と児童は考え、90度の①で大会を行うこととなった。  個人で楽しくできたと思うコートにシールを貼って話し合う。
事後協議の概要	本時の授業では、攻める側と守る側両方の視点に立って、どのコートが楽しくゲームができるかを考える授業だった。 児童の反応から、お互いの視点からどのコートが良いかを選択している姿は多く見られた。 しかし、「楽しくゲームをする」とは児童によって考え方が様々であり、打つほうに気持ちが偏っている児童も少なくなかった。 また本単元では、競技の難しさを軽減するために、打つ道具の種類多くして選択できるようにしていたが、その選択肢の多さが「みんなが楽しくゲームができるコート」という目標に対して適切とは言えなかった。打つ道具をそろえることで、目的が焦点化され、本時の目標がより達成できたのではないかという意見があった。

